

山梨のむかし話で博物館にふれる

伊勢小学校2年では、国語のほんの紹介コーナーで『山梨のむかし話』を扱った。そこで、山梨の自然や風土にちなんだ民話を取り上げ、子どもたちにお話の楽しさに触れさせるとともに、郷土山梨に関心（低学年なりの博物館導入）をもたせるきっかけ作りを考えてみた。紹介作品は『山梨の湖水伝説』『八ヶ岳のおいたちと美し森』『富士の噴火』（『山梨のむかし話』山梨国語研究会編より）の3作品である。

事前 特になし

当日の流れ

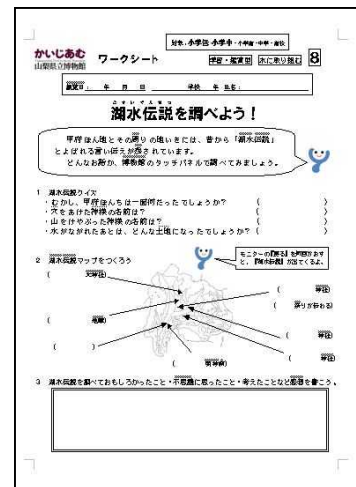


本の紹介
読み聞かせ 「山梨の湖水伝説」
立体地図ですり鉢状の地形の確認
クイズ（登場人物・場所の確認）
他の2作品の紹介「八ヶ岳のおいたちと美し森」「富士の噴火」 * 地図も併せて使用
感想発表

活用した資料等

かいじあむワークシート 湖水伝説を調べよう
子ども用だが、全部使用は難しいため湖水伝説クイズをおこなった。

むかし、甲府盆地は一面何だったか。
穴を空けた神様の名前はにんなんというか。
山をけやぶった神様の名前は何というか。
水が流れた後はどんな土地になったでしょうか。



事後 インターネットの画面で博物館の概要を簡単に閲覧した。

一言 小2という低学年児童でも、昔話から山梨の風土や自然に接することが容易にできると感じた。歴史・地理・自然を難しく考えず、民話（昔話）などの読み物・お話で考えていくと楽しい学習となる。ただし、現実と物語（フィクション）の区別をしっかりと持たせなければと思った。
(伊勢小学校 数野妙子)